

香川県立文書館

収蔵文書目録
第七集

香川家文書目録

香川県立文書館

解 説

I 香川家と財田上之村

一、財田上之村の概況

三野郡財田上之村(現 香川県三豊郡財田町「財田上」は明治二十三年から現在までの大字名)は、近世期、「財田上ノ村」とも単に「上ノ村」とも称した。はじめ、生駒氏領、寛永十八年(一六四一)丸亀藩領(山崎氏)、万治元年(一六五八)丸亀藩(京極氏)、元禄七年(一六九四)から多度津藩領であった。村高は、寛永期一〇一四石、元禄期一六六八石、天保期一八三一石余であった。弘化期の戸数は、五五八戸(百姓五四九、僧など九)、人口二二六九人(男一二二四人、女一〇四五人)。山村と畑地が多いために、桑の栽培による養蚕が行われた。真綿のほか、渋柿・茶・松葉・竹など特産物を藩に納めている。「西讃府志」によれば、村の広さは、東西一里三町余、南北二里一町余。多度津から四里一八町余離れており、東には追上・山脇村、西には中之村、北には佐文・神田村と接していた。

明治七年(一八七四)、財田は、三野郡第二十三大区で、財田上之村は第六小区に属し、戸長事務所は佐股村に、財田中之村は第五小区に属し、戸長事務所は大野村に置かれた。明治八年当時の戸長は、財田上之村が大久保謙之丞、財田中之村が川崎藤之助であった。

明治二十年代になると、県内で町村の合併が盛んになった。財田上之

村と財田中之村の合併は、明治二十二年(一八八九)十二月二十八日、県令第八四号で公布されたが、一年間の猶予期間が置かれ、翌年財田村が誕生した。その後、県の指導で、財田村と神田村の合併が望まれたが、複雑な地形と交通状況などから不成立となった。

その後、昭和四十五年(一九七〇)、町制を施行し、財田町となり、現在に至っている。

二、香川家と香川実五郎

香川家が地方のリーダー(地方名望家)として主に活躍したのは、香川実五郎が生きた時代である。実五郎は忠誠塾で漢学を修め、大久保謙之丞に師事した。忠誠塾は、明治十七年(一八八四)三月、大久保彦三郎が自宅(財田上戸川)に開いた塾である。ここでは、夜学級として三餘舎を設け、貧しい家庭の子弟たちに読書や算術などを無報酬で教えていた。なお、この塾はのちに発展し、尽誠学園(善通寺市)となる。明治二十年財田上之村の村吏となり、同二十三年、財田村が発足してから永年村議会議員を勤めた。また、郡議会議員を一期勤め、明治三十六年県議会議員に選ばれ、以後四期県政に携わった。大正六(一)十一年(一九一七)財田村長を勤めた。また、その間、財田村第一耕地整理組合長として、水田開墾、大正池の築造、土讃線の開通にも尽力した。一方、財田上尋常高等小学校に学校林一町一反七畝六歩(一・一七ヘクタール)を寄付したり、村立農林補習学校設立に努力して青年教育を推進した。

次の表は、実五郎の年譜である。

和 曆	西 曆	出 来 事
元治 元年	一八六四年	正月九日、香川金造の長男として誕生
明治 七年	一八七四年	雉峡小学校へ入学
明治一七年	一八八四年	財田上村の村吏(筆生)となる
明治二二年	一八八九年	財田村会議員当選(永年)
明治三〇年	一八九七年	財田村専従学務委員となる
明治三三年	一九〇〇年	郡会議員当選(一期)
明治三六年	一九〇三年	県会議員当選(以後四期)
明治三九年	一九〇六年	財田村名誉助役となる
明治四一年	一九〇八年	財田村農会長となる
大正 元年	一九一二年	財田村第一耕地整理組合長となる
大正 六年	一九一七年	財田村長当選(大正一一年)
大正 八年	一九一九年	三豊郡蚕業組合財田村支部長となる
大正一四年	一九二五年	財田村農会顧問となる
昭和 元年	一九二六年	財田村所在原有林看守を病気で辞職
昭和 三年	一九二八年	一月二四日、死去(享年六四歳)

以上のように、香川家は、明治、昭和前期、地方自治・教育の面で、地域に功績のあつた家であつた。

II 香川家文書について

一、目録作成の経緯

平成四、五年、香川県議会史編纂室が、香川家文書の中の県会関係文書を調査した。同九年四月、香川県立文書館が調査し、文書の全点を預かることになった。文書館において、同年四月、十一月まで史料整理を行い、同十一年十二月に文書館所蔵史料となった。同十五年四月から、目録作成のための詳細内容調査と再整理を実施した。

二、文書の概要

香川家文書は、明治期、昭和戦前期の行政関係文書、教育関係文書、農業関係文書を主な内容とする。

(一) 行政関係文書

① 県議会史料

明治三十五年(一九〇二)～大正七年(一九一八)の県会議決書などがあり、当時の県政の動きが詳細につかめる。また、他県への視察報告もあり、たとえば、「鳥取島根二県視察報告」(大正二年史料番号六一四一)は、阿讃国境との比較のもとに詳細な内容となっている。また、特筆すべきは、明治二十二年の臨時県会の議事録である。それによれば、同年一月三十日に初代香川県知事林董の名のもとに告示され、高松市御坊町興正寺別院で開かれた臨時県会の模様がわかる。同年二月四日午前十一時三十分、出席議員三十六名で開会し、活発な議論が交された。なお、財田上村が属した三野郡からの選出議員は、大久保謙之丞であつた。

②町役場関係史料

明治・大正・昭和期の財田村(町)の議会関係史料が多く残っている。その中でも、財田村にとって重要事業であった「四国新道」の工事に関する史料(史料番号七三四・六〇六)、地域の活力ともなった青年団の史料(史料番号五三七九)などはとくに貴重である。

(二) 教育関係文書

香川家は、教育一家であるために、各学校関係史料が多い。実五郎が幼少期に学んだ「忠誠塾略則」(明治十七年 史料番号五一八)や、彼が学問の本分を肝に銘じるために、いつも携帯していたと思われる「生徒ノ心得」(明治十一年 史料番号五一一)などはとくに貴重である。また、実五郎の次男大三が、財田青年学校長を勤めていたことから、多くの青年学校関係史料が残っている。香川県教育史の中でも、青年学校関係史料は不十分であることを考えると、貴重な史料群と言える。とくに、昭和前期の農業科と算術科の「学習指導案」(昭和八・十一年 史料番号七五五〇)は特筆できる史料である。

(三) 農業関係文書

果樹を含む農産物や畜産・養蜂などの諸史料が多く残されている。農協関係史料も多く、とくに、宝山農協のそれが充実している。

一方、実五郎関係で言えば、農業に対する情熱ともいえるほどの彼の仕事ぶりが窺える史料が、農会関係史料の中にある。たとえば、実五郎は、明治四十一年(一九〇八)、嶋田郡長の命令で、財田村農会長として、山口県に実業視察をしている。その報告書(史料番号五〇九)によれば、同県の産業改革を範とすべき主張にもとづき、農会員に多くのことを伝えてい

る。

(四)その他

①家関係史料

教科書・教育関係の刊行物が多く割合を占める。その他に「鉄道猪ノ鼻トンネル工事」(大正十三年 史料番号六〇五)、「財田村処女会裁縫塾」(史料番号六〇四)など、財田村の歴史に不可欠の写真史料がある。前者は戦前の鉄道トンネルとしては日本有数の長大トンネルであり、昭和二年(一九二七)に完成した。写真は、大正十三年当時の工事の状況である。後者は明治四十五年頃、財田中之村にあり、学校を終えた女子が和裁の稽古をした場所の写真である。また、「香川実五郎聯合写真帖」(昭和三年 史料番号五三八九)には、実五郎が県会議員当時(明治四十・四十四年)の全議員の集合写真や、大正三年の財田村第一耕地整理組合による大正池築堤工事の現場写真など、大変貴重な内容の写真が掲載されている。

②収集本

「香川家文書」の中で、大多数を占めるのが収集本である。この目録では、和装本・刊本・雑誌の三種にわけた。「易経」などの和装本の残存数は少なく、刊本・農業関係雑誌が圧倒的に多い。なかでも「主基齋田記録」(大正七年 史料番号四七八七)はとくに貴重である。

《参考文献》

- 『財田町誌』(財田町誌編纂委員会 昭和四十七年)
- 『新修財田町誌』(新修財田町誌編纂委員会 平成四年)
- 『角川日本地名大辞典 三七 香川県』(角川書店 昭和六十年)